

「定時総会」をはじめ「支部総会」などに参加する校友は、参加して楽しい、面白いというだけでなく、さまざまな情報を求めて参加する方が多いのでは。ですから、事務局としては、もっと積極的に情報発信する、参加者にとってメリットのある催しを増やす……、そうしたことが重要であると思います。校友が何を望んでいるかをリサーチしたり、考えることはもちろん、総会後の懇親会の会費も若い校友は会費を安く、年齢が上がって少し余裕ができた校友に

ります。私は各地の「支部総会」にも参加していますが、それぞれの地域支部には素晴らしい人がたくさんいます。北海道ですと、室蘭市の市長さんは本学出身ですし、同市選出の道議会議員は2名ですが、いずれも本学出身です。そして隣接市からは、元スピードスケート選手の堀井学さんも道議会議員として活躍しています。

また、先日、群馬県桐生市の支部に行きました。桐生市の市長さんは2代続けて本学出身者です。しかも、先代の市長さんは3期続けられました。こうした多彩な校友がいることは、専修大学の「底力」という感じがします。そうしたことをご存知の校友は少ないのではないのでしょうか。「アドニス」にしても、どうしても東京中心になりがちですが、地元ならではの情報を「アドニス」編集部や校友会事務局にお寄せいただきたいと思います。

デジタル時代といわれていますが大切なのは人と人のつながり、つまり、校友会の「人脈」であり、「絆」であると思います。ぜひ、多くの校友の皆さんが校友会の催しなどに参加され、本学ならではの「人脈」を有効に活用してもらいたいと思います。(記)

専修大学校友会 副会長

小宮多喜次

こみや たきじ●1965 (昭和40)年、法学部法律学科卒業。1998年生まれ、東京都出身。元東京消防庁消防総監。現在、東京共済生造協理組合理事長、財団法人消防記念会名誉会長。学校法人専修大学監事。座右の銘は「誠心誠意」。趣味はドライブ。



校友会の行事に参加しよう。

は増額をお願いするなど段階的な会費制など、参加しやすい環境づくりも大切であると考えています。全国の支部が活性化することで、さまざまな校友が支部の催しに参加し、次の段階として本部主催の「定時総会」などの催しに参加してもらえるようにしたいと思います。

専修大学には130年の歴史と、長年にわたって培ってきた伝統があります。就職率も高い状況にあります。司法試験や公認会計士の合格者数にしても、素晴らしい成績を取っています。そうした一つひとつの積み重ねで、今の専修大学があります。「定時総会」に参加すると、そうしたいろいろなことがわかります。これは個人的な意見ですが、東京以外での「定時総会」開催を定例化することも、必要ではないかと考えています。

地方にお住まいの校友の皆さんにとって、身近な存在として全国に316の校友会の支部があ

新校友歓迎祝賀会



3月22日(月)、神田校舎1号館中庭で、この春、本学を卒業した新校友が集まりました。甘竹秀雄校友会長のあいさつ、日高義博理事長・学長の祝辞などに始まり、友との別れを惜しんだり、同窓に迫った社会への放立ちについて語り合ったり、さまざまな光景が見られました。

